

# 吟

# 稲吟OB会会報

No.26

稲吟OB会公式ホームページ <http://www.togin.org/>

発行：2006（平成18）年12月8日 発行者：早稲田大学稲吟OB会事務局  
編集発行責任者：高橋 優（稲吟OB会事務局）通巻第26号「稲吟OB会NEWS」改題

目次 本会顧問・初代会長 青木敏昭さんご逝去 ...1-3 / 稲吟OB会定例総会報告...4, 5 /  
発表大会開催・新執行部発足 ...6, 7 / 創立50周年記念誌の刊行遅れについて・事務局より...8

## 本会顧問・初代会長 青木敏昭さんご逝去

青木敏昭・稲吟OB会顧問（昭35）が、去る11月29日に亡くなられました。享年70歳。青木さんは1956（昭和31）年に早稲田大学に入学、同年秋の稲吟会創立に加わり、初期の中心メンバーとして会の発展の礎を築きました。1960年に稲吟OB倶楽部を設立し、1963年に吟友会、1965（昭和40）年8月に稲吟OB会として組織的に発展する中で初代会長として本会においても重きをなしました。勇退後は顧問に就任。2005（平成17）年11月の稲吟会創立50周年記念大会ではOB側発起人。

通夜は12月3日、葬儀・告別式は4日に国分寺市の東福寺でしめやかにおこなわれ、稲吟OB会から小出秀文会長、野中民蔵、須田芳矩、松岡宣夫各顧問など約30名が列席しました。告別式では、同期生として創立時の稲吟会をともに歩まれた前田茂則さん（昭35）が友人代表として弔辞を述べられました。前田さんは、1956年秋に「早稲田の森に吟詠の会を」という掲示に惹かれた創立集会で青木さんと対面した折のことを緒として、稲吟会50年の歴史と、そこに常にかかわってこられた青木さんの想いを、故人の生き生きとした姿をしのばせるエピソードとともに語られました。葬儀のおわりに、関係者一同で送別の詩「元二の安西に使いを送る」を吟じ、出棺に際しては浅田俊祐・元稲吟会幹事長（社4）の指揮で校歌を斉唱して惜別しました。



創立50周年記念祝賀会  
(2005/11/23)でのお姿

### 先輩のご逝去を悼む

稲吟OB会会長 小出秀文（昭48）

昭和31年に早稲田・神田川の河畔に呱呱の声をあげた早稲田大学稲吟会は本年51年目の初冬を迎えています。こうした最中、私どもにとって誠に悲しいお知らせをお伝えしなければなりません。去る11月29日、早稲田大学稲吟会創設者、わがOB会創設者である青木敏昭先輩には薬石効なくご逝去されました。ご訃報はまさに痛恨の極み、断腸の想いでありました。心からお悔やみを申し上げます。

令夫人敦子様からお伺い致すところでは、昨年の稲吟会創立50周年祝典へのご出席さえ危なかったと

の由、詳細を存じ上げなかった私としては全く驚きました。奇跡的ともいうべき強靱な生命力と意思力に加えそのような素振りを全くみせなかった、精神力のたくましさ・忍耐力にはただただ感服いたしました。古武士然とした風格のもとに、なにか心温まる雰囲気か漂っていました青木先輩でありましたから、いまにして思えば私的なことは全く公言されなかったのかもしれない。

そのようなお人柄を偲ばせるエピソードをいくつかご紹介致しましょう。私が稲吟会の執行部を引き受けていたある日、35年も昔のことです、先輩は稲吟の話がききたい、一緒に飯でも喰おうと連絡をいただきました。新宿の寿司屋さんですっきりご馳走になり、早稲田の話、稲吟の話、全学連のこと、学生気質のことなど話しがはずみ楽しい時間がすぎ、いざ解散というとき、「小出君、君は大隈先生の墓所がどこかご存じか？お参りをする意思が有るか？」のご照会であった。先輩とともに深夜の護国寺をお参りさせていただいたことは生涯忘れられない思い出です。青木先輩の早稲田マンは本物を痛感したエピソードであります。

私学には建学の精神があり、その精神・理念に共鳴する若人が集う、学舎の門を叩く。師弟の情愛の細やかなること・強固なることは私学ゆえの証明です。

ただいま私は私学振興の団体職員を勤めていますが、つねに心に刻んでいますことはあの夜の墓参に象徴される私学的人間関係・キズナの重要性であります。

このほかにも、平成元年のころ、稲吟会は会員が急激に減少、会の存続の危機に直面。OB会は早速にも非常事態を宣言し全面的な支援体制を敷くこととしたのでありますが、その折、ご出席の青木先輩が「心配はまったくない。創設のころは数人で会員募集のピラを作りキャンパスのいたるところにはり、はがされたらまたはって稲吟会の発足にこぎつけた。当時にくらべれば呼びかけ人も倍であるし、一大集団のOB会がある。心配無用。」このひとことに総会出席の全員が奮い立ち、会勢復活の行動に出、危機収束に向かいました。こよなく稲吟会を愛し続けた青木先輩の存在はまことに重く有り難い存在でありました。

このほかにもたくさんの思い出が交錯しています。会員の皆さんにおかれても同様でありましょう。

「人生の価値は単に時間の長短できまるのではなく、その濃密さが重要」とは稲吟会 15 周年の折の青木 OB 会長のご挨拶の一節です。70 年の生涯を駆け抜けた精神といいましょうか人生哲学でもあったのでありましょう。人生意気に感ず、その精神を継承致すことを誓い、お別れのご挨拶を申し上げます。

## 惜 別

稲吟OB会常任幹事 金子堅吾（昭35）

青木敏昭兄が、11月29日薬石効なく大腸ガンのため、永遠の眠りについた。謹んでご冥福をお祈りいたします。

あなたは稲吟会発足の初会合「神田川」の集いに参加され、草創期の基礎を固め、支え、その後も永く稲吟会並びに稲吟OB会の発展に貢献してくれました。本当にありがとう。

発足間もないゆえに、会員も少なく、部室もなく、練習場所もなく、金もなかったし、文化団体として公認されてもいなかった。

そんな中、情に厚く、面倒見がよく、心配性で、気配りのきく、責任感の強い、君の力は実に大きかった。何度もありがとうと言わせてくれ。あなたの力が今日の隆盛を築いたのだ。体調のすぐれない中、昨年11月の50周年記念大会の大隈講堂に姿を見せ、続いての祝宴会にも顔を出され、大成功裏に幕を閉じられたことに安堵したことでしょう。この大会を無事終わらせるまでは、死んでも死に切れないと心中深く思っていたことでしょう。

あなたは、母校を愛し、稲吟会を愛し、さらにふるさとを、こよなく愛してやまない男だった。通夜・告別式の会場には、「赤とんぼ」の曲が流れ、「送元二使安西」の合吟に続いて校歌を3番まで現役諸君とOBが高らかに歌う中、静かに出棺された。涙が止まらなかった。

名古屋の熱血漢・諏訪雅也が5月15日、数年に及ぶ闘病生活の末、ひと足先に旅立たれました。きっと双手をあげて抱きついてくるでしょう。稲吟会の半世紀に及ぶ来し方を、杯をかたむけながら語り合ってください。

本当に本当に、ありがとう。ありがとう。

合 掌

## 50年の恩人を悼む

稲吟OB会副会長 古賀 毅(平4)

稲吟会創立メンバーのおひとりであり、本会の初代会長を務められた青木敏昭さんが、2年近い闘病の末、薬石効なく他界されました。

あらためて私などが申すまでもなく、青木さんは稲吟会そのものを体現する方でいらっしゃいました。享年70とのことでしたから、そのご生涯の大半が稲吟会の歴史と重なっていたこととなります。同窓会の運営に携わる私の信条は、4年ほどの時間を学生として過ごしたという点では誰もが対等であり、OBとしての活動はボランティア精神と当人の意志・趣向の問題であって、その点をもって他の同窓生と区別するべきではない、「特別な人」はあるべきではない、というものです。そうでなければ同窓会の意義が薄れます。けれども、その私をして小さなこだわりを忘れさせるほどに、青木さんの存在感は別格でありました。責任ある立場でそのことを申し上げても異論はないことと思われまます。

私たちの年代にとって青木さんのお姿は遠く、はるかなる創立者として語られるだけでした。本会会長は早くに退いておられましたし、先輩方からうかがう過去の話題において、不思議なことに創立期の昭和30年代はほとんど登場しなかったからでもあります。いまにして思えば、私たちが学生だったころは、青木さんのご本務が最も多忙な時期にさしかかっていたのではないかと拝察します。

そうした「伝説」の中の青木さんに親しくお声がけいただく厚遇を得ることになったのは、約10年前、私が稲吟OB会の仕事に参加するようになったころのことです。組織・財務・对学生関係などあらゆる面で制度疲労を起こしていた本会をリフレッシュさせようと、あの手この手を考えて行動しましたが、なかなか好転を感じられずにいました。

「ここまでどうにかつづいてきたんだから、悪いようにはならないよ」「じっくりやってみてよ」

というのが、若輩にいただいた青木さんの助言でした。独特の関西なまりで「古賀よ」と拙宅に電話してこられたり、こちらから会社へ押しかけて話を聞いていただいたりと、その当時はずいぶんとお付き合いをいただいたものです。簡単なアドバイスが済むと、話題はたちまち数十年前の学生時代に舞い戻り、それは愉快そうな表情で、往時を懐かしんでおられました。ふと思ったのは、青木さんがお話しになっていた「原点」こそが、世代交代とともに本旨を見失いかけていた稲吟OB会を再生させるための、最良のアドバイスなのではないかということでした。その後、事務局を設置した折や人事刷新のとき、あるいは記念大会のときなど、節目に際しては青木さんのご高見に甘えさせていただきました。私たちの構想ややりかたを寛大な心でいつも支持して下さったことに、大いに勇気づけられました。青木さんが、稲吟OB会の設立者にして初代会長であったことはどなたもご存じでしょうが、平成期の困難な局面においても大きな足跡を残された方であり、比肩する者のない本会最大の功労者であられたという事実を、ここに謹んでご報告しておきたいと思ひます。

昨2005年には病状を悪くされたようでしたが、入院中の病床から拙宅にお電話をいただき、創立50周年記念大会の進行具合をお訊ねになりました。当日お待ちしておりますと申し上げてよいのか躊躇したものの、大隈ガーデンハウスでおこなわれた記念祝賀会で発起人代表として乾杯の声を上げられる姿を拝見し、本当によかったなと思ひました。記念すべき日のあの場に青木さんが不在ならば、画竜点睛を欠くくらいでは済まかったでしょうから。実は、稲吟会の創立年数は「数え年」であり、ことし2006年が満50年にあたります。ちょうど半世紀のときに旅を終えられた青木さんの足跡に、心からの敬意と感謝を感じずにはいられません。

◆◆ 2006年度稲吟OB会定例総会報告 ◆◆

## 年会費引き下げ：より気軽に参加できるOB会に

2006年10月21日(土) cafeMiyama 高田馬場店会議室において、2006年度の稲吟OB会定例総会が開催されました。今回は出席者が9名と大変に寂しい状況で行われましたが、OB会の存在意義に関わる問題など、真剣な議論が交わされました。

### 2005/2006年度(2005/6/1-2006/9/30) 通常会計 決算

収入の部			支出の部		
費目	当初予算	決算案	費目	当初予算	決算案
前年度繰越金	1,056,305	1,056,305	通信費	220,000	72,597
年会費	560,000	1,014,000	対稲吟会支援	120,000	120,000
寄付金	0	0	通信費補助(対稲吟会)	60,000	60,000
			会報製作費	60,000	19,281
			広報関係費	30,000	3,390
			行事関係費	150,000	0
			慶弔費	30,000	10,000
			役員会議費	30,000	30,000
			事務局経費	30,000	11,166
			記念大会特別会計繰入	500,000	500,000
			地方等支援	20,000	20,000
			振込手数料	7,000	1,190
			予備費	359,305	0
			次年度繰越金	0	1,222,681
合計	1,616,305	2,070,305	合計	1,616,305	2,070,305

### 50周年記念大会特別会計 決算

収入の部			支出の部		
費目	当初予算	決算案	費目	当初予算	決算案
前年度繰越金	1,466,452	1,466,452	祝賀会費用(会場・ケータリング)	1,000,000	850,000
2004/05年度通常会計より繰入	300,000	300,000	祝賀会関係費(事務・小物)	80,000	30,619
2005/06年度通常会計より繰入	100,000	500,000	発表大会関係費	150,000	202,630
会員賛助金	1,200,000	1,883,855	通信費	80,000	100,752
祝賀会学生負担分	120,000	93,000	事務費	60,000	21,838
預金利息	0	200	会議費	50,000	105,457
			対稲吟会記念贈呈品	100,000	122,853
			記念品(参加者・来客に頒布)	400,000	106,050
			記念誌(編集・発行・頒布)	1,000,000	29,318
			表彰関係費	100,000	105,652
			予備費	166,452	0
			繰越金	0	2,568,338
合計	3,186,452	4,243,507	合計	3,186,452	4,243,507

2006/2007年度(2006/10/1-2007/9/30)通常会計 予算

収入の部			支出の部			
費目	前年決算	予算案	費目	前年度予算	前年度決算	予算案
前年度繰越金	1,056,305	1,222,681	通信費	220,000	72,597	150,000
年会費*	1,014,000	400,000	対稲吟会支援	120,000	120,000	120,000
寄付金	0	0	通信費補助(対稲吟会)	60,000	60,000	60,000
			会報製作費	60,000	19,281	60,000
			広報関係費	30,000	3,390	30,000
			行事関係費	150,000	0	150,000
			慶弔費	30,000	10,000	30,000
			役員会議費	30,000	30,000	50,000
			事務局経費	30,000	11,166	30,000
			特別会計繰入	500,000	500,000	0
			地方等支援	20,000	20,000	20,000
			振込手数料	7,000	1,190	7,000
			予備費	359,305	0	915,681
			次年度繰越金	0	1,222,681	0
合計	2,070,305	1,622,681	合計	2,070,305	1,622,681	

\* 5,000円×80人

事務局人事

退任 事務局次長 田中ゆみ子(平10)

2006/07 活動計画

- ・2006年 10月21日 2006年度定例総会 cafeMiyama(高田馬場)
- 12月 稲吟OB会会報26号発行・年会費請求 事務局
- ・2007年 3月 稲吟会春合宿
- 8月 稲吟OB会会報27号発行・年会費請求 事務局
- 8月 稲吟会・OB会交流行事
- 9月 稲吟会夏合宿

## 年会費を引き下げ、5,000円に

今期から、年会費が現行の7,000円から5,000円に変更されることになりました。

この10年にわたる財政再建の結果、危機状態にあった会計も大幅な黒字へと転じました。これを会員に還元し、会員の参加に対する負担を軽減すると同時に、いっそうの積極的な参加を働きかけるべく、年会費を引き下げることとなりました。これまで年会費の滞納を理由にOB会活動への参加をためらっていた会員の皆さん、これを機会に復帰してみませんか？ 若年会員の皆さんも、ぜひお気軽にOB会の催しにご参加ください。

減額に伴い、財政状況はこれまでよりも厳しくなりますが、発送経費を切り詰めるなど、一層の支出の引き締めを図ってまいります。

◆◆ 稲吟会だより ◆◆

## 発表会開催、そして新執行部発足

さる10月21日(土)新宿区にある戸山教育会館にて早稲田大学稲吟会の学内吟詠発表大会が開催されました。多数のOBも駆けつける中、稲吟会会員諸君の日頃の鍛錬の成果が披露されました。11月には第52代執行部も発足し、新たな歴史を刻む稲吟会の新体制が整いました。大任を終えたばかりの旧執行部、フレッシュな新執行部の諸君からのメッセージをお届けします。

平成18年度学内吟詠発表大会を終えて

第51代幹事長 小林明仁(社学3)

本年度は、早稲田大学創立記念日である10月21日に学内吟詠発表大会を開催しました。当日はOB・OGの諸先輩方や一般の方合わせて50名程の方々にご来場して頂き、まずまずの賑わいでした。

本年度は指導側である3年生が4人であったのに対し被指導側は15人程で、指導側の人数が極端に少ないという状況でした。3年生は1年生の指導で手一杯で、2年生は自分達のみで練習している風景も珍しくありませんでした。そのような状況でしたので、今年は「詩吟」だけを重要視するというより、稲吟会の全ての活動... 友情校との関わりや友好サークルとの関係などを、等しく「楽しむ」事に重点を置いて活動してきました。

その甲斐あってか、今年1年間の稲吟会の雰囲気は良い意味でも悪い意味でも、非常にのびのびとしたものでした。それは発表大会にも表れていたと思います。

今年の発表大会は、会員全員が楽しんで準備をすることができました。本番も緊張感こそあれ、とても温かい雰囲気だったと思います。例年と比べて「厳しさが足りない」と批判を受ける事もありましたが、私自身は稲吟会の新しい一面を開拓することができたと思っております。

今後も後輩達の手によって第52代、53代と稲吟会は続いていくと思いますが、変わらぬ御指導御鞭撻の程よろしくお願い致します。

1年をふりかえって

第51代総務幹事 金田和歌奈(法2)

稲吟会50周年を終え、新しい一步を踏み出した51年目。振り返れば、この1年は忍耐の年であったように思います。

50周年記念吟詠発表大会という一大イベントを終わって以来、全体的にモチベーションが低下し、いわゆる燃えつき症候群のような状態が続いていました。入会して以来、ひたすらに周年大会を目指し、それだけのために練習に励んできた私たちは、これから何を目指していけばいいのかわからなかったのです。

新入生が入ってきてからも、それは同じでした。練習に身が入らず、またそんな上級生の気持ちが伝播してしまったのか、新入生の出席率もかんばしくなく、飲み会に1年生が1人も来なかったこともありました。

一体これから何のために練習するのか?何を目指していけばいいのか?

そんな中で思い知ったのは、皆がいることの大切さでした。サークルとは人が集まるからこそ楽しいものであり、全員で活動するからこそ楽しいのだと気づきました。同時に、今何がいけないのか、どう

すれば会が良くなるのか問題意識を持ち、ひとりひとりが考えて、その人なりに実践していく風潮が生まれました。

はじめは来なかった1年生も、早慶戦、百ハイ、前期総会... さまざまなイベントをこなしていくうちに団結心が生まれ、夏合宿では、深夜2時を過ぎても練習を続ける1年生の姿も見られました。

皆で演目を考え、皆で練習した発表会。まだまだ課題も多いし、練習不足なところも多々見られましたが、ひとりひとりががんばって、あたたかな発表会が出来たと思います。

「発表会の後の一杯がこんなにうまいと思いませんでした。」

そう言って笑う1年生を見て、やってよかった、と心から思いました。

達成感を得られる発表会に向けて（第52代幹事長挨拶）

第52代執行部幹事長 嘉部好洋（理工2）

先日の後期定例総会における選挙において、晴れて新幹事長に就任することができました。嬉しさが胸にこみ上げる一方で、選挙中の答弁を通じて分かった自分自身の会に対する考えの甘さに不安を抱いている次第です。

私はこの1年半の間、一般会員として稲吟会で過ごしてきました。私がもともとこの会に入ることを決めた理由は、この会の居心地の良さと懐の広さ、そして何よりも活気に満ち溢れていた点です。詩吟を通して、大勢の人の前で舞台発表するなど、普段では得られない貴重な経験を得られました。さらに先輩や後輩、友好サークルやOB・OGの先輩方との出会いにより、自分の考えに広がりを持たせることができました。この会を通して自分自身に様々な変化をもたらすことができたと考えています。また、いつも自分の居場所として温かく迎えてくれるこの会が好きであり、入会して本当によかったと思っています。

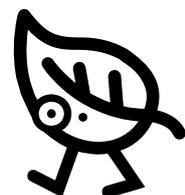
この会を皆がより楽しめ、多くを得る場所にしたい。そして自分自身へ更なる変化を与え、挑戦したいと考えた結果、幹事長になり、会の運営に直接関わっていきたくらいと思いついた次第です。

私の目標は偏に、全員が満足し、達成感を得られるような素晴らしい発表会を作り上げたいということです。それを通じて稲吟会をより多くの人に知ってもらいたい。そしてともに大学生活を謳歌し、舞台を盛り上げるたくさんの友人を得て、稲吟会の楽しさ、素晴らしさを後世にまで伝えていきたい。抽象的ではありますがこれが今の私の目標です。

まだまだ未熟で至らぬ点も多いですが、いつでも頼りになり、本気で話し合える仲間とともにこれからの困難を乗り越え、目標達成のために尽力をつくしていきたいです。そしてOB・OGの先輩方、これからもご指導ご鞭撻の程をよろしくお願い致します。

#### 第52代新執行部

幹事長	嘉部好洋（理工2）
副幹事長	中川正章（理工2）
	根間博之（社学1）
会計幹事	日比野諒子（一文2）
指導幹事	金田和歌奈（法2）
渉外幹事	加藤岳晴（政経2）
総務幹事	笛木真佑子（法1）



◆◆ 50周年記念大会 ◆◆

## 創立 50 周年記念誌の刊行遅れについて

会員各位には、昨 2005 年の稲吟会創立 50 周年記念大会に合わせて記念誌の編集をおこなう旨を先にお知らせし、多くの方から原稿や資料のご提供をいただいています。ご協力ありがとうございました。

刊行が遅れているのは、編集委員会の業務遅滞によるものではありませんが、本来編集の中心となるはずだった稲吟会（学生）側の担当者が交代して従来の方針が変更されたため、内容や刊行の趣旨について再検討する時間を要したことが主因です。いずれにしましても、会員各位、とくにすでにご協力いただいている皆様には、心よりお詫び申し上げる次第です。

上記の事情により、当初の予定より規模を縮小せざるをえなくなりましたが、来春を目途に刊行をめざしますので、よろしくご理解のほどお願い申し上げます。

なおこれに関して、今後新たに原稿執筆のご依頼をさしあげることがありますが、その折にはご協力くださいましたら幸いです。

（編集委員長 古賀 毅）

◆◆ 事務局から ◆◆

## 年会費の納入にご協力ください

会員の皆様には、年会費（5,000円）の納入をお願いしております。ご協力誠にありがとうございました。なお、まだお支払いでない方は下記の口座にお納めください。なお、2年以上お振込の確認が出来ない場合、名簿・会報の郵送サービスが停止されます。

各位の会費納入実績につきましては、稲吟 OB 会事務局会計幹事の板倉真介（平 10）にお問合せください。

お問合せは往復はがき、もしくは電子メールにてお願い致します。電話でのお問合せはご遠慮ください。

- ・往復はがきでのお問合せの際には、ご自身の氏名、住所、卒業年度を返信面にご記入ください。
- ・電子メールでのお問合せ方法 [kaikei@togin.org](mailto:kaikei@togin.org) 宛てに氏名、住所、卒業年度をお知らせください。お答えできるのは、お問合せを頂いたご本人の納入実績に限ります。

口座名： 早稲田大学稲吟OB会 振替 00150-7-61740  
年会費 5,000円

恐れ入りますが振替手数料はご負担ください。2年度分（10,000円）以下なら1口70円です。

～ 担当者から ～

2002 年夏号以来 4 年間にわたり会報を作成してきた田中（平 10）に代わり、今号より高橋（平 4）が担当することになりました。どうぞよろしくお願い致します。今年は初代会長植田重雄先生、そして諏訪雅也先輩、青木敏昭先輩がお亡くなりになるなど、悲しい記事の多い 1 年でした。来年はよい年になりますように。（たかはし）